

2021年度

三重大学 人文学部法律経済学科

## 特殊講義「協同組合論」



<第9回>

「働き人の協同」

豊内 和寿／日本労働者協同組合連合会センター事業団  
東京南部事業本部 総務経理センター長

第9回（12月6日）：受講49名（対面11名、リモート38名）

労働者協同組合とは、働く人びと・市民が、みんなで出資し、民主的に経営し、責任を分かち合って、人と地域に役立つ仕事をおこす協同組合である。協同労働は仕事の創造と地域社会への振興を目的にしており、市場至上主義と競争原理に基づく営利を追求する雇用労働とは目的が異なる。2020年12月に、「労働者協同組合法」が法制化された。3人以上集まれば、誰でも労働者協同組合が作れるようになる。「企業に雇われる」「自分で事業を起こす」とは別の働き方の選択肢ができるのである。

【第9回／講義の要旨】

- ・「レイドロー報告」は、第一次産業革命では、労働者や職人は生産手段の管理権を失い、その所有権や管理権は企業家や投資家の手に移った。つまり資本が労働を雇うようになった。ところが労働者協同組合はその関係を逆転させる。つまり労働が資本を雇うことになる。大規模にこれが発展すれば、これらの協同組合は、まさに新しい産業革命の先導役を務めることになること示している。
- ・日本の労働者協同組合は、日本労働者協同組合(ワーカーズコープ)連合会や、ワーカーズコレクティブネットワークジャパン、農村女性ワーカーズ、障がい者就労作業所等がある。ワーカーズコープは、28団体16,000人の組合員を擁し、事業高は351億円である。ワーカーズコレクティブネットワークジャパンは、500団体10,000人の組合員を擁している。
- ・ワーカーズコープでは、「失業対策事業」の打ち切りから「事業団づくり」をすすめた。自分たちの働く場は自分たちで作る、人と地域に役立つ「よい仕事」をする、仲間は死ぬまで面倒を見合う、事業に必要な資金は自分たちで出し合い働いて残すとしている。そして、誰もが自分らしく安心して暮らせ、働き続けられる地域社会を目指して様々な事業や運動をすすめている。
- ・先進国で唯一、日本には「労働者協同組合」を規定する法律がなかった。2020年12月に、「労働者協同組合法」が法制化された。施行は2022年10月である。この法律は、組合員が出資し、それぞれの意見を反映して組合の事業が行われ、及び組合員自らが事業に従事することを基本原理とする組織に関し、設立、管理その他必要な事項を定めること等により、多様な就労の機会を創出することを促進するとともに、当該組織を通じて地域における多様な需要に応じた事業が行われることを促進し、もって持続可能で活力ある地域社会の実現に資することを目的としている。

## 第9回講義／受講生のレポート（抜粋）

- ・今回の講義では、協同組合の意義である組合員が自主的にやりたいことを話し合い実現していくということをなにより体現している協同組合の形だと感じた。これまでの講義でも、もちろん組合員の主体性によって成り立っている協同組合ということは感じていた。しかし今回は、失業対策事業から始まったという点もあり労働者が自分らしく働くことのできる環境を実現しつつ、地域社会のためにも役立つ仕事を自分たちの力で行っていた。その業種も幅広くそれがまたなにより自分たちでできることを考え実現させてきた結果であるのだと思った。
- ・労働者協同組合の存在は今回の講義を受けるまで知らなかったが、起業や就職とは違う働き方が労働者協同組合ではでき、地域や人のためになるような仕事のアイデアがあればだれでも労働者協同組合を作ることができるようになるので、これから詳しく労働者協同組合について学び自分の将来の一つの選択肢として考えてみたいと思った。労働者協同組合が法制化し、これからは新しい労働者協同組合が増えるだろう。
- ・今回の労働者協同組合の講義では、労働者一人ひとりがどう経営と向き合っていくべきなのかが繰り返し問われていて、協同組合とは組合員が存在するからこそ成り立ち発展する組織だということが強く意識されました。経営を自分ごとでできるか、という問いかけが協同組合の本質を表していると先生が仰っていたように、一人ひとりの組合員が経営の当事者である意識を持つことが組織を成立させるために最も必要のことだと感じました。しかし、それがとても難しいことでもあると判例や講義内のお話で感じました。自分が負うべき責任や当事者意識が大切なのは、協同組合の中だけでなく社会で生きる上で非常に大切で忘れてはならないものだと思えました。
- ・労働者協同組合について、授業を受けるまではどのような活動をしているのかよく知らなかったけれど、様々な人が働きやすい環境や仕組みを作り、最終的には持続可能で活力ある地域社会を実現するために色々な活動をしていることを知ることができた。生きていくうえで労働は切っても切り離せない生活の一部になるため、今後はより一層このような新たな働き方の仕組みについて考えていくことが必要になるのかなと感じた。
- ・労働者協同組合のしくみがあることで、労働者の仕事にかける気持ちや主体性もより強まるだろうし、労働者や地域のニーズがより反映しやすい団体になれるのではないかと考えた。労働者が主体的になれる選択肢のひとつとして非常に魅力的だと思う。ワーカーズコープの活動やそのあり方については初めて知ったが、このような選択肢や仕組みがあるのだということを知っておくことがまず大切だと考えた。前回の労働者福祉についてのお話とはまた違った切り口から、労働と協同組合についてのお話を聞くことができ、非常に有意義で興味深い時間になった。
- ・労働者協同組合自体は聞いたことがあるが具体的にどのような活動を行っているか知れてまた協同組合に関して関心が深まりました。特に、ワーカーズコープが行っている「みんなのおうち」運動は労働者だけでなく、地域社会に住む人々がより暮らしやすいように様々な活動を行っていることを聞き、こういう活動があるからこそ地域自体が良いものとなり地域の活性化が進むのだと感じました。
- ・ワーカーズコープは、集まった人がやりたいことに挑戦し、自主的に働くことのできる環境であると感じた。仕事のない人に焦点を当てただけでなく、その地域でのニーズにも焦点を当てることで協同労働の可能性を広げていると感じた。

- ・法律が成立したら、成功に近づくと楽観的に聞いていたが実際に運用されていくには課題があることに驚いた。
- ・労働について「対価が得られるから仕事をする」ではなく、「人・社会の役に立つことをするから対価が得られる。」という根本的な部分を労働者は常に意識しておくべきと感じた。
- ・3人以上集まればだれでも労働者協同組合が作れるということは今までの講義の内容から考えると驚いた。協同組合は前回の三重県漁業協同組合連合会のように都道府県や市町村の自治体単位で行われていることが普通だと思っていて、そのため組合員の数も自然と多いものだと思っていた。しかし、3人以上から作れることで、より細かいその人にあったニーズに応えることができるし協同組合というものが身近に感じることができると思った。
- ・対消費者の協同組合はイメージしやすいのですが労働者協同組合はあまりイメージがわからなかったので、今回の講義はとても有意義でした。人と人との関わりや誰もが安心できる社会を大切にしているところが、協同組合には共通していると感じました。誰でも労働者協同組合が作れる時代に新たに生まれる課題が興味深かったです。
- ・集まった人たちがやりたいこと、やるべきことを決めるため、さまざまな活動を行っている。労働者協同組合の活動によって、やりたい仕事に就くことができ、人々が充実した暮らしを送ることに繋がっていることがわかった。先進国で日本だけ、労働者協同組合を規定する法律がないことに驚きました。
- ・労働者協同組合についても初めて知りましたが、2020年の法制化に伴って3人以上集まればだれでも作れるようになると聞いて驚きました。コープタクシーやきょうどう歯科の例でもあったように、自分たちの仕事のために、そして地域に必要なことは何かを考えて、自分たちで集まってやりたいことをやれるというのは画期的なことだと思いました。コープタクシーのように、今雇用形態や労働条件のよくないといわれる職業は、無理して雇用されなくても、不満がある労働者で集まって事業を行えるということになるので、一般的な雇用労働を見直さざるを得ない状況にもつながるのではないかと考えました。
- ・法制化されることによって多くの人々が集まってお金を出し合い好きなことが出来るようになり、自分たちがやりたいことを助け合いながらできるようになっていると感じました。また、地域が良くなることや働いていくことで地域内に仕事を創出することに繋がっていると思いました。その人らしく充実して働ける場を提供することや多くのニーズを満たしていくことで、持続可能で豊かな地域社会の形成に繋がっていき、組合員一人ひとりが組合員としての意識を持つことが大事であると学びました。さらに、ただ単に働くのではなく抱えている課題にどう向き合っていくのか、課題に直面した際にどうしていくのかといったことなどを考えながら仕事を行う必要があると学びました。
- ・ワーカーズコープは誰でも自分らしく働くことができる環境をつくることを主に目指して取り組んでいるということが今回の講義を通してよく分かったとともに、労働者協同組合がどのような取り組みをしているのか具体的なイメージをすることができた。また、法整備が進むことは、働き方の選択肢を一つ増やすことにも繋がるという所がとても印象に残るとともに、今後は増々多様な働き方が認められる社会になっていくのだということを感じた。

以上